

2018年3月25日

## 福音書からのメッセージ

百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」と言った。

(マルコによる福音書 15章 39節)

イエス様は十字架につけられ、息を引き取ります。イエス様の周りには、たくさんの方がいました。その中に、あなたもいたと想像してみてください。

もしあなたが弟子の一人、ペトロだったとしたら、どうでしょう。これまでずっとイエス様に従ってきた。しかし、イエス様が祈っている間、一緒に起きていてほしいと言われたのに、寝てしまった。イエス様が逮捕される時、自分はイエス様を見捨てて逃げてしまった。イエス様が心配でついて来たけれども、自分も捕まるのが怖くて、イエス様のことを三度も知らないと言ってしまった。一番近くにいなながら、一番そばについていながら、どうすることもできずに声を出すことすらできないペトロの姿がそこにはあります。あなただったらどうしましたか。

もしあなたが群衆だったとしたら、どうでしょう。ガリラヤでたくさんの奇跡を起こしたイエス様。そのうわさを聞きつけ、エルサレムまでやって来た。でも彼は、自分が思っていた救い主とは違いました。自分たちだけを救い出したり、革命を起こしたりという姿は、イエス様には微塵も見られませんでした。それどころか、弟子たちにさえ裏切られてボロボロになっているイエス様。そのイエス様を見ながら、叫ぶ群衆の姿がそこにはあります。「十字架につけろ」と。あなただったらどうしましたか。

もしあなたが祭司長や律法学者だったとしたら、どうでしょう。エルサレムにい



ながら、イエス様のうわさは耳に入ってきていました。安息日にはしてはいけないことをし、罪びとや徴税人と食事をし、神さまを冒瀆している。そのようにイエス様は彼らの目に映っていました。

彼らにとって、イエス様はねたみの対象でした。自分たちが絶対的に信じてきたものを覆されたと怒り狂い、群衆を扇動してイエス様を十字架へと向かわせるのです。あなただったらどうしましたか。

もしあなたがピラトだったとしたら、兵士だったとしたら、イエス様と一緒に十字架につけられた強盗だったとしたら、百人隊長だったとしたら、そのときあなたはどうしたでしょう。

わたしたちはイエス様と共に、歩めたでしょうか。十字架に向かうイエス様の後を、自分の十字架を背負い、処刑場であるゴルゴダまで、進んで行けたでしょうか。わたしたちは気づかされます。わたしたちは決して完全な人間ではありません。神さまの前に正しく生きることができないのです。

イエス様は、誰のために血を流したのでしょうか。誰がイエス様を裏切り、誰が見捨て、誰が排除し、誰が引き渡し、誰が十字架につけたのでしょうか。

イエス様は血を流されました。その血によって、誰が救われるのでしょうか。

答えを知りたい方は、ぜひ復活日の礼拝にいらしてください。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>